ライフサイエンスセミナー 受講者募集

生命科学の意義や面白さに触れる

市は、「ライフサイエンスセミナー」と「入門講座」の受講者を募集します。対象はいずれも高校生以上。詳しくは、市役所本庁舎1階総合案内所横、各支所・公民館、アクタ西宮ステーションなどで配布している募集案内をご覧ください。

①入門講座「生命を科学で考えてみよう ～ライフサイエンス入門」

9月11日(金)午後7時からフレンテ西宮4階で。講師は武庫川女子大学名誉教授・吉田雄三さん。 受講料無料。定員72人。

②ライフサイエンスセミナー「脳を巡るライフサイエンス」

9月18日～11月13日（9月25日、10月23日を除く）の金曜（7回）午後6時半からフレンテホールで。テーマ等は下表のとおり。受講料3000円（1回のみは500円）、高校生・市内大学生は無料。定員各200人（定員に余裕がある場合に限り1回のみの受講も可）。

日程	テーマ	講師
9/18	導入講義「脳のライフサイエンスの予備知識」	武庫川女子大学名誉教授 吉田雄三さん
10/2	脳発生の分子機構	同志社大学大学院教授 元山純さん
10/9	神経回路形成の分子機構	京都大学大学院教授 根岸学さん
10/16	瞬きの科学	大阪大学大学院准教授 中野珠実さん
10/30	タンパク質の立体構造からその機能を知る～アルツハイマー病関連因子を中心に	大阪大学蛋白質研究所教授 高木淳一さん
11/6	ここまでわかった「病は気から」、多発性硬化症モデルから得られるもの	北海道大学遺伝子病制御研究所教授 村上正晃さん
11/13	パーキンソン病におけるピロリ菌と光療法の話題提供	国立病院機構刀根山病院院長 佐古田三郎さん

申込

講座名（②を1回のみ受講する人は希望する講座の開講日）、住所、氏名（ふりがな）、高校生・大学生は学校名、電話番号を書いたハガキかＥメールを8月31日(必着)までに大学・生涯学習推進課(〒662－0911池田町11－1✉vo_daishou@nishi.or.jp)へ。電話も可。多数の場合抽選　※市のホームページ(楽しむ・学ぶ→生涯学習)にある申込フォームからの申込も可

問　大学・生涯学習推進課（0798・35・5166）

中古品大歓迎　使わなくなったおもちゃ譲ってください

教育委員会は、「子供の居場所づくり事業」で子供たちが使う遊び道具の寄付を募集しています。

トランプやＵＮＯなどの「カードゲーム」、オセロや囲碁・将棋などの「ボードゲーム」といった家庭で使わなくなったものがあれば、ぜひ寄付してください。

寄付してほしいもの

- ▷トランプやＵＮＯなどの「カードゲーム」
- ▷オセロや囲碁・将棋、野球盤などの「ボードゲーム」
- ▷ジェンガやカプラなどの「木のおもちゃ」
- ▷サッカーボールやバスケットボール、長縄跳びなどの「集団で遊べる遊具」

注意点

- ✹一度寄付されたものは、返却できません
- ✹上記以外のものでも受け取りできる場合があります。社会教育課まで相談してください
- ✹寄付したものの取り扱いは社会教育課に一任してもらいます

寄付方法

7月27日～8月31日に、寄付するものの内容を社会教育課へ電話し、社会教育課（教育委員会庁舎2階）や同課が指定する場所へ持参してください。詳しくは問合せを。

問　社会教育課（0798・35・3868）

ため池などで遊ばない 子供の水難事故に注意！

ため池等において、子供の立ち入りなどによる水難事故が各地で報告されています。

特に夏休みは、子供の水遊びへの興味が増す時期です。

子供たちを水難事故から守るため、用水路やため池で遊ばせないようにしてください。

問　農政課（0798・35・3329）

人権を考える市民のつどい 思いやる心を大切に

8月は「人権文化をすすめる県民運動」の推進強調月間です。

社会はさまざまな価値観を持った人やいろいろな年齢・国籍の人によって成り立っています。自分と異なる人を排除したり、認めないというのではなく、日常の交流を通して、お互いの「こころの壁」を取り払いましょう。

市は、8月18日(火)午後1時半から勤労会館ホールで「人権を考える市民のつどい」を開催します。明蓬館高等学校　共育コーディネーター・南雲明彦さん＝下写真＝を講師に迎え、「当たり前の在り方を考えてみる～学習障がいから考える人間と人権」と題した講演を行います。また、宮水学園コーラスグループ「宮水青春櫻」が合唱を披露します。入場無料。申込不要。手話通訳・要約筆記あり。　※車いすで来場する人は、事前に人権平和推進課へ連絡してください

南雲明彦さん

問　人権平和推進課（0798・35・3320）

◇多文化共生を考える

「Win-Win」の関係を目指して

兵庫県立大学准教授　乾　美紀

皆さんは、「多文化共生とは何か」と聞かれると、どのように答えますか？色々な答えが期待できますが、「人々がおのおのの違いを認めながら共に生きる」ことが最も模範的な答えでしょう。多民族国家であるアメリカなどと比べ、日本では外国人を受け入れる基盤がまだ万全ではありません。私が暮らしていたアメリカでは、隣人が難民や移民であることは珍しくなく、〝Respect the difference〟（違いを尊敬する）ことを肌で感じさせられました。地域ボランティアは彼らに英語を教えると同時に、彼らの母語を学んでいました。

兵庫県でも外国人が増え、2014年末の在留外国人数（9万6530人）は全国7位の数字です。近年、日本にやって来た外国人の中には、専門職に就く人もいますが、工場などで働き、現状では人手が足りない産業などに労働力を提供してくれている人も多くいます。「あなたの食べているコンビニ弁当は、外国人の人たちが夜中に食品工場で作ってくれたかもしれないよ。」と授業でいうと学生は妙に納得してくれます。

多文化共生社会で理想とされることは、〝Win－Win〟の関係を築き上げること、つまり外国人も日本人もお互いが利益を得られることです。外国人が日本で安定した職を得て、地域で日本語を学び、子どもたちが教育を継続できれば、幸せと感じるでしょう。外国人が地域の人に支えられながら自立することが望ましいです。私たちも外国人と共に生きることで、異なる考え方や価値観を身に付けることができ、視野が広がります。外国人の子どもの補習教室でボランティアをしている学生は、言葉の壁にぶつかり、文化的摩擦からストレスを起こしますが、次第に多様性に寛容になり、国際感覚も身につけています。

人は違って当たり前です。問題はそこをどう受け止め、乗り越えていくかです。多様性にいかに対応できるかという「多文化共生能力」が問われる時代です。この地域で暮らして良かった、西宮市に来て良かった、と外国人に思ってもらえるようなまちづくりをしていきませんか。

問　秘書課（0798・35・3459）